

福岡県立築上西高等学校

自己評価				
学校運営計画 (4月)			評価(総合)	
学校運営方針	生徒の実態に応じた指導の工夫・改善を図り、自尊感情を高めるとともに、地域を愛し、地域から愛され、地域に貢献できる人材を育成する学校。			
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
昨年度は、生徒・保護者及び地域等から信頼され魅力と活力溢れる学校づくりを行うため、授業の充実及び地域連携の体験型探究活動等を通して、生徒の自尊感情を高める取組を工夫し、より実効性のある教育活動を実施した。今年度は創立110周年を迎え「西高・新時代」を新たなスローガンに、コミュニティースクールの指定により、地域連携をさらに発展させるとともに、ICTの活用を進め、生徒の実態に応じた学習指導・生徒指導の工夫・改善を行う。	基礎学力の充実	「鍛えて、ほめて、子どもの可能性を伸ばす」分科授業、ICTの活用とAI型授業の推進、地域と連携した課題探究による課題発見・解決能力の育成。		
	積極的な生徒指導の徹底	基本的な生活習慣の確立、面談週間や学校生活アンケート等の活用による生徒理解、生徒会活動・部活動の活性化。		
	希望進路の実現	3年間を見通した進路指導計画「築西プラン」の実行、学びなおし等を利用して個別最適化された指導の工夫。		
	人権・同和教育の推進	知的理解にとどまらず、人権感覚を育む特設授業の充実と自尊感情の向上、「いのち」の大切さ・他者尊重の精神を育む。		
	広報活動の充実	ホームページを充実させ、中学校訪問を効果的に行うとともに、同窓会・地域と連携し、情報発信を進める。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
学習指導	希望進路を実現できる基礎学力の充実。	わかる授業「学び直し」を取り入れた段階的な指導を行う。また課題を計画的に実施して家庭学習の習慣化を図るとともに、授業において小テスト等を実施し、基礎・基本の習得を図り、「できる」喜びを実感させることで自尊感情を高める。 成績不振者や気になる生徒について情報交換を密に行い、補習や特別保護者会などを通じて手厚い指導を行う。		
	効果的な学習指導の研究と実践。	AI型授業の取り組みとICT機器の活用を促し、生徒一人1台タブレットの利活用と学習への意欲を高めさせる。生徒がともに学ぶ基盤を築き、授業評価アンケート及び授業改善シートを実施し、教職員の教科指導力の向上と授業改善の推進を図る。 授業規律の確立を図るため、教室の環境整備と授業巡回を行い、授業を大切にすることを育成し、基礎学力の向上へつなげる。また、地域と連携した課題探究に取り組み課題解決能力の育成を図る。		
生徒指導	当たり前の事をやりきらせる生徒指導 ～凡事徹底～	・当たり前に挨拶が出来る生徒の育成→教員から積極的に挨拶 T(タイム)、M(マナー)、C(クリーン)の徹底 【時間を守る、マナーを身につける、学校をきれいにする】 T:安易な遅刻の防止、遅刻事前連絡の徹底(無断遅刻厳禁) M:身だしなみ、言葉遣い、態度など気を付けさせる。 C:日頃の掃除の徹底		
	生徒会、各種委員会の活性化	・リーダーに有用感、達成感を持たせる。 ・陰では「細かく厳しい指導」、生徒の前では「リーダーを前面」に出す。		
	愛校心の育成(西高の一員として自覚を持たせる)	・創立110周年を機に校歌が歌える生徒の育成 →校歌を歌う機会を積極的に設ける。 ・部活動の奨励、活性化 →新入生に担任、学年から声かけをする。全体で部活動参加率70%以上。部活動集会を実施(年間5回)、部活動生としての意識付けをする。		
進路指導	第一希望進路の実現のため、各種課外を実施する。また、各種選抜方法を積極的に活用する。	チャレンジ課外を実施し、基礎力に加えて実力の養成を図る。 総合型選抜や学校推薦型選抜を活用し、進学実績を向上させる。		
	各学年の状況にあわせた、キャリア教育の実施と進路情報の提供を行う。	1、3年生は体験型の進路ガイダンスを、2年生はインターンシップを実施し、進路意識を高める。 進路の手引きや進路閲覧室の活用を促し、自分自身の進路(将来)と向き合う機会づくりをする。		
研修	授業研究の推進・充実。	2学期に研究授業週間を設ける。授業を実施する教員や参観する教員の負担が過剰にならないように、実施方法の見直しや改善を行う。		
	職員研修の推進・充実。	生徒の実態に合った指導が行えるよう、各分掌と連携を取りながら研修を企画する。研修の実施時期について、教員の負担にならないよう設定する。		
学年	基本的な生活習慣を身につけ、自尊感情を育むことで、「生きる力」を育成する。	対話を中心としたきめ細やかな指導を実施する、また、学び直しを中心に基礎学力の向上を目指し、やれば出来ることを実感させる。CTCをもとに、地域を知り、地域に貢献できる存在になれるようにする。		
	積極的な生徒指導による基本的な生活習慣・学習習慣の確立をおこない、進路に対しての明確な目標設定を図ながら自尊感情に育成を図る。	積極的な生徒指導を徹底することで、基本的な生活習慣の確立と学習習慣の確立を目指す。また、進路実現のために何が必要なのか、今取り組むべきことは何なのかを考えさせ、明確な進路設定を促す。 進路実現のための個人個人への適切な指導助言を行う。各自の進路選択に合った面接指導や、小論文・学科の指導を丁寧に行う。学校生活や行事等で他者と協力することや集団で活動することの大切さを理解させる。		
図書教育	読書に親しむ態度の育成。	全職員、全生徒参加のもと実施し、朝朗読を通して文章に親しむ機会を設ける。		
	委員会活動の充実。	図書委員会を開き、各自の役割を認識させ責任をもって行わせる。芸術鑑賞の際には、会場準備等の役割を責任もって行わせる。		
保健指導	生徒一人ひとりの確かな健康観と自尊感情の育成。	生徒の健康状態を十分把握し、必要に応じた対応をする。また職員、保護者との連携を図り共通理解のもとに努める。		
	教育環境や生活環境の維持改善。	落ち着いた学習環境を維持し、衛生的な学校生活を送れるよう校内美化活動に全生徒・全教職員で取り組む。		
人権・同和教育	人権に関する知的理解の深化・人権感覚の育成	年間計画に基づいて実践する年間5回の人権学習HRIにおいて、ふりかえりシートや職員アンケートを活用して授業改善を行い、人権学習の充実に努める。		
	生徒が相互に尊重し合う人間関係づくりの推進	各教科や特別活動等教育活動全体を通して、職員が生徒の差別的な言動に向き合い、生徒の人権意識の形成に寄与できる力量をつけるための職員研修を実施する。		
情報化推進	職員のICT活用能力や情報セキュリティに対する意識を高める。	職員研修としてICT支援員主催の講習会を設け、ICT活用の具体的な手順を職員に共有		
教育環境	生徒の安心・安全な学校生活を支えるため施設・設備の維持管理に努める。	校舎改修工事が円滑に進むよう、校内及び業者との調整を図る。 老朽化した施設・設備を安全に使用できるよう定期的な点検を実施し、危険個所の早期発見及び対応に努める。		
	開かれた学校づくり	コミュニティースクール実施初年度の各種業務を行う	担当者とのやり取りを密に行い、日程の調整や内容の吟味を行い、地域との連携を図る。	
自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策				

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
	A 適切である B 概ね適切である C やや不適切である D 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
評価項目以外のものに関する意見	